平成２７年度　第２回千葉市公園等活用事業者選定委員会　議事録

１　日　時：平成２７年１２月８日（火）午後２時００分～午後５時３０分

２　場　所：千葉中央コミュニティセンター８階　千鳥

３　出席者：

（委員）　榛澤委員長、朝倉委員、澤本委員、山﨑委員、西臨時委員

（欠席：大谷副委員長）

（担当課）　動物公園：石田園長、西野副園長補佐、蚊谷主査、髙橋主任技師

（事務局）　まちづくり推進課：簾課長、佐藤課長補佐、塚本主査、浅野主任主事

４　議　題

（１）「千葉市動物公園ふれあい動物の里」活性化事業に係る業務の企画提案書の審査及び評価の審議

５　議事の概要

（１）「千葉市動物公園ふれあい動物の里」活性化事業に係る業務の企画提案書について、応募者より内容説明の後、委員による質疑応答及び審査・評価を行った結果、Ａ社（株式会社ファーム）を優先交渉権者として千葉市長へ報告することとした。

６　会議経過

議題（１）「千葉市動物公園ふれあい動物の里」活性化事業に係る業務の企画提案書の審査及び評価の審議

【Ａ社】

①質疑応答

・すべてを自社で運営することの利点は何か。

→他の事業をＪＶで受託した経験があるが、ＪＶの場合、参加事業者内の調整が難しく、事業の遂行がスムーズにいかないことが課題として感じている。自社ですべてやることで、スピーディーな対応はもとより、意思疎通もスムーズに図れるものと考えている。そして、このことはすべて安全管理につながっており、これまで当社が受託した案件に関して大きな事故もなくやってきていることの根拠と考えている。

・５名スタッフ（臨時を含む）というのは、どの範囲を指すのか。

→乗馬スタッフ（飼育係を含む）として５名の他、施設管理に３名の合計８名を常駐スタッフとして用意する。なお、繁忙期は施設管理のスタッフが乗馬スタッフの応援に回る体制をとる。

・乗馬用のウマは何頭いるのか。また、そのローテーションはどのようにするのか。
→８頭を予定している。乗馬の混み具合（ウマの体調）を見ながら、１日１日でローテーションを組むようにする。
・いろいろな実績があっての提案だと思うが、あまりやりすぎると、本来の乗馬の特色が薄まってしまうように感じる。バランスよくやる必要があると思うが、どのように考えているか。
→乗馬を盛り上げるための行催事を考えており、毎年同じことではなく、新しいことを取り入れていくよう企画する。

②委員意見
・提案内容の中には、他で実施しているような内容も含まれているようであるが、ネーミング等を含め、「千葉市動物公園の独自性」をどのように表現するのか、検討してほしい。
・資料は立派だが、これだけのことが本当にできるのかが気になる。オーロラライトアップは、１年中やる必要がないと思う。メリハリが重要で、「いつもやっているから、いつ行ってもいい」というニーズを作ってしまってはつまらない。

【Ｂ社】
①質疑応答
・乗馬・引馬の経験はどの程度あるのか。日常的に同様の業務をやっているのか。
→乗馬･引馬等を日常的に行っているＮＰＯ法人のメンバーが自社に入社することになっており、今回の企画を受託した場合には、その者が担当することになっている。
・ホースセラピーは外注するのか。
→上記、ＮＰＯから入社する者が行うことになっている。また、２年後には、現在、大学院で高齢者へのセラピーを研究している者を招聘する予定である。
・牧草をあげる来場者が増えすぎて、ウマが牧草を食べられなくなることはないのか。また、ウマが食べられないようであれば、餌やり体験を制限するのか。
→予定では、１日２０キロの牧草を給餌することにしており、その中の１０キロを餌やり体験で食べてもらうようにする考えである。それを大幅に上回る場合は、ウマも食べない場合があると思うが、食べたい量の牧草を食べたいだけ食べさせてあげることが草食動物にとって望ましい状況である。また、この牧草はイネ科を中心としており、配合飼料やマメ科の飼料ではないことから問題はないと思う。
・今回の企画内容は他で既にやっていることではないのか。
→他では実施したことがない内容である。
・ウマを道具としてではなく同等の立場として接しようとする姿勢など、素朴だがオリジナリティがあって良いが、ウェブやライブ等の提案はその考え方とひずみがあるように感じたのでやめた方が良いと感じたが、どのように考えるか。
→３年前から、キャンプ場やオートキャンプ場などの運営を通して、週末ごとに新しい

クオリティの高いものを投入することで集客が見込まれるという実績を積んできている。イベントが中心ではなく、メインの内容をさらに盛り上げるための材料と捉えている。また、今後の動物園の役割として、人間が動物を見るだけでなく動物も癒されるような環境が重要であり、集客もしながら動物も癒される仕組みを千葉市動物公園で展開していきたい。
・ウマと人間の関係を深く考えているように感じるが、相互の癒しの関係とはどのようなものか。また、そのような取り組みと経営との関係はどうか。
→ウマは７歳の子ども程度の頭脳を持っていると言われており、子どもに寄り掛かられるとウマもその温かさを感じるような関係を築くことができる。ウマが身近な関係は、ヨーロッパでは当たり前になっており、学校教育の期間にとどまらず、親睦を深めることと飼育することが密接に結び付いた環境の構築が今後の日本においても望まれる。なお、経営面については、稲わらも高騰しており、乗馬だけで利益を出すことは難しく、生牧草の餌やりとあわせて成り立たせるものと考えている。

【Ｃ社】
①質疑応答
・ビジネスが前面に出ているようで、ウマと本当にゆったりとふれあえるような感じがしないが、どのように考えるか。
→ウマをよく知ってもらうようなイベントをやっていきたい。提案書にあるグッズ等の内容は、すべて実施するわけではなく、こういったものができるという例である。
・ポニーは用意できないのか。
→自社で飼っているポニーがいるが、それほど小さくないので、今回の企画を受託できればウマを用意する予定である。また、動物公園とも近いので、必要に応じて自社で飼っているウマを動物公園に連れて行くことも可能である。
・動物園らしいことと、そうではないことを組み合わせることで集客が可能と考えているようだが、動物と関係のないイベントもやるのか。
→動物の赤ちゃんが産まれたときや、新しい種類の動物が来た時などは動物園の来場者が増えるが、普段動物園に来ない方を呼ぶための方法として、動物と関連したイベントの要素やグッズの販売を入れていくことが重要だと考える。
・ウマの現場での管理は誰がやるのか。また、常駐スタッフはいるのか。
自社の社員の他、提携している動物の専門学校の学生をスタッフとして関わらせようと考えている。また、自社の社員を常駐させようと考えている。
・学生はアルバイトになるのか（雇用関係）。学生は入れ替わりがあるので変わっていくと思うが、どのように考えるか。また、学生の研修の場とするのか。
→専門学校との共同で実施しようと考えている。学生の入れ替わりによる質のばらつきはあるかもしれないが、ウマに初めてかかわる者ではなく十分に慣れている者を配置する。また、お金をいただいて実施することなので、研修の場にする考えはない。
・ウマは、繁忙期と閑散期でどのような頭数を用意するのか。

→最大で５頭を考えている。それほど広くない場所なので、ウマのストレスも勘案して配置する。
②委員意見
・物販と乗馬の関係性に乖離があるように感じる。
・飲食販売の内容にはあまり魅力が感じられない。

【Ｄ社】
①質疑応答
・ウマを８頭用意するということだが、既に自社で飼っているのか。
→受託決定後に用意する。
・乗馬スタッフはどのような経験を持つ者か。
→１名は、リーダーとして、乗馬の経験があり調教もある程度できる者をこれから募集し、自社牧場で研修を行った後に動物公園に配置する。なお、必要に応じて、自社牧場のスタッフと配置調整を行う予定である。
・自社牧場にはウマが何頭いて、そのためのスタッフは何名いるのか。
→小さなポニーを入れると２０頭を超えているが、乗馬用は１４頭である。また、スタッフは７名である。
・羊の毛刈りショーの提案があるが、動物公園に他の場所から動物を連れてくることは可能なのか。
→受け入れ側で問題なければ可能である。また、自社では羊の毛刈りショーを年２回ほどやっているが問題ないので、動物公園の羊でもショーを行うことは可能である。
・乗馬時のヘルメットは着用義務等があるのか。
→今回の募集要項に安全具の装着に関する記載があったためであり、義務はない。実際には、ヘルメットをかぶることを嫌がる方が多い。自社ではヘルメットの着用を求めていないが、大きな事故は発生していないので問題ないと思うが、絶対安全ともいえない。ヘルメットを着用しなくても良いというルールになれば、着用を求めないということも考えられる。
・ポニーとそれ以外のウマとの割合はどの程度を考えているか。
→道産子をイメージしている。道産子は体高１３０センチ程度であり、大人も乗れるし、子どもが乗ってもそれほど高くないのでちょうど良い。さらに必要に応じて小さいウマも用意することで、小さい子どもも乗れるような環境をつくっていきたいと考えている。

【採点結果】

Ａ社（株式会社ファーム）	７６．８点／１００点
Ｂ社	６５．９点／１００点
Ｄ社	６２．１点／１００点
Ｃ社	失　　格